

福井市内49地区社協と市社協をつなぐ情報紙

むすんで ひらいて

第47号
発行日
令和3年3月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧いただけます



コロナ禍でも「つながり」を絶やさない



コロナの収束を願いデイホームの利用者とスタッフが制作した折り鶴飾り(東公民館にて)

ポイント1

無理なく、
できることから

自治会型デイホームや食事サービス等の活動が十分にできる状況にない中で、日常的な見守りは、これまでの活動を補うのに有効な方法となります。日常的な見守りは、生活の中にあり、感染予防に気を付けながら、無理なくできる範囲で続けていくことが大切です。

ポイント2

“つながり”を
絶やさない方法で

気にかかる高齢者宅へ健康情報、脳トレ等の「おうちでデイホームセット」やまごころのこもったメッセージカードの配布、電話での安否確認等が行われています。その他、道で会ったときにこれまで以上に高齢者のことを気遣ったりしながら“つながり”を保っています。



令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、人との接触を避けるため、地域での活動に制限がかかった1年になりました。その中でも、各地区の社会福祉協議会では役員の皆様の創意工夫により、つながりを絶やさない取り組みを続けてこられました。

そこで今号では、こうした取り組みを広げるため、コロナ禍でもつながりを絶やさない取り組みのポイントと取り組み事例を紹介します。

(次ページに各地区での事例を紹介します)



コロナ禍でも“つながり”を絶やさない 地域のあたたかな取り組み紹介

事例1

食事サービス編

お弁当に季節の花や木の写真を添えた活動



食事サービスのお弁当にはいつもメッセージを添えています。今回、コロナ禍で外出がままならない高齢者に外出した気分になっていただくために、季節の花や木々の写真をアルバムにして楽しんでいただきました。

(日之出地区)



事例2

電話での安否確認や調理ができないお弁当の代わりにものを配布

食事サービスの利用者に毎月、電話で身体の様子や身の回りのことについて尋ねて、安否確認をしました。また、公民館での調理ができないことから、お弁当の代わりにお茶やお菓子、インスタント味噌汁をお届けし、身体の様子などをお聞きしました。(啓蒙地区)

事例1

見守り活動編

メッセージカードの配布と声かけの強化

新型コロナウイルス感染拡大するなか訪問回数が少なくなり、高齢者の不安を少しでも取り除きたいと思い、メッセージを記入したカードを配りました。また、日頃からの見守りを維持するため、ゴミ出しなどのときに声かけを今まで以上に行いました。

(鶏地区、栗地区、鷹巣地区 類似取り組み含む)



事例1

自治会型デイホーム編

おうちでできるボランティア “手作りマスク”

自治会型デイホーム専任職員から市社協手作りマスクボランティア募集の情報を聞きました。協力者や利用者の中にはボランティアの意識が高い方もおられたので、デイホームが開催できない期間、おうちでできる手作りマスクの作成を呼びかけました。

(森田地区、酒生地区 類似取り組み含む)



事例2

頭の回転通信の手渡しと回収での見守り活動

自治会型デイホームの休会中には、生活リズムが崩れると思い、公民館の協力を得て手作りマスクとなぞなぞやクイズ等の「頭の回転通信」を作成しました。

答え合わせを兼ねながら直接回収又は電話で安否確認や見守り活動を行いました。

(本郷地区)



つながり方の
新たな選択肢を
増やす第一歩を!!



全国各地では、小さな情報交換会や集まりが少しずつ始まると共に、ICT(=情報通信技術)を活用した非対面による交流などが広がっています。

人に直接会う頻度が少なくても、手紙や電話、メールなどで連絡し合う非対面による交流がある人はフレイル(=虚弱)予防につながるといわれています。いろいろな形で人との交流は大切にしたいですね。

当協議会でも各地区社協との情報交換会を継続し、そこで出たアイデアやチャレンジを共有して、地域の実情に合わせたつながり方の選択肢を増やしていきたいと思えます。

フレイル予防の重要性を再確認!!

3月14日(日)、社北地区社協が自治会型デイホーム事業の協力員34人を対象に、フレイル予防について学ぶ研修会を開催しました。

講師の福井市フレイルトレーナーで理学療法士の細川昌樹さんから、フレイル(＝虚弱状態)は普段の心がけで予防や改善ができるし、フレイルの兆候を早く発見すれば健康な状態に戻ることもできると話されました。



また、フレイル予防には「人とのつながり」が大切だと話され、「デイホーム等への社会参加がフレイル予防にどのような効果をもたらしているかがわかる研修会でした。

参加者からは、「フレイルを予防するためには人とのつながりが大切だとわかった」「デイホームのお手伝いをすることも自分自身のフレイル予防にもつながっていると感じました」などの感想が寄せられました。

会長の関西愛子さんからは、「コロナ禍でデイホームを開催することに不安を感じる時期もありましたが、デイホームがフレイル予防に大きな役割を果たしていることが再確認できた。「コロナ禍だからこそフレイル予防に努めたい」と意気込みを語られました。



大雪の中での見守り活動!!

今年1月、福井市は3年ぶりの記録的な大雪に見舞われました。

この大雪で不安や困りごとを募らせている人がいるのではないかと考えた清水北地区社協は、1月11日(月)に、民生委員児童委員と福祉委員が協力して、スコップ片手にひとり暮らし高齢者宅を訪問し、見守り活動を行いました。

深く降り積もった雪をかき分けながら、ようやく高齢者宅に到着。訪問すると、高齢者からは「除雪車



が入ってこなくて、玄関も雪で埋もれてしまった。そんな中、ようやく来てくださった」「食料も少なくなり心細かった。顔が見えて本当に心強かった」など、安堵の声が聞かれました。

玄関先の雪かきを手伝ったり、困りごとがないかを尋ね、食糧が少なくなっていた高齢者には、応急的に民生委員児童委員宅の保存食をお裾分けしたり、買い物支援をするなど、支え合い活動が行われました。

非常時に生かされるのは平常時につくられたつながりです。事務局の川堺健さんは、「普段のつながりが大雪でも生かされた。これからも地道な活動を大切にしたい」と笑顔で語ってくれました。



地区社協の活動と取り組みを順番に紹介します

順化地区

ひとりひとりのやさしさが
地域の大きな力となって

順化地区社協会長 村田 眞一



順化地区は福井市の中心部に位置し、官公庁や企業のオフィスが立ち並ぶ地域です。そのため、昼間と夜間の人口の差が著しく、人

口・世帯数の減少や少子・高齢化が進み、令和3年1月現在の高齢化率は37・9%となっております。

順化地区の特色ある地域福祉活動としては次の2つがあります。

1つ目は自治会型デイホーム事業です。順化地区自主開催として行っている『健康脳トレ麻雀』は利用者から大人気で、毎回20名以上の利用者が楽しみに参加されています。

さらに参加者のみなさんが楽しみにしていることは、敬老会での「デイホームの発表の場」です。デイホームで練習を重ねてきた音読や踊り等を披露する場があるこ

とで、みなさん心も体もいきいきと輝いております。いずれも、令和2年度はコロナのため中止になりましたので、再開が待ち遠しいです。

2つ目は、「順化地区タオル供出運動」で昭和42年から毎年行っています。タオル、石鹸、手拭い等を自治会長さん経由で集め、市社協を通じて市内の老人福祉施設や障がい者福祉施設等へ寄贈しています。

今年度はコロナ禍にも関わらず、576点もの品物が集まりました。毎年贈呈用の箱詰めをしながら、ひとりひとりのやさしさが、地域の大きな力となってここまで継続できていることを実感しています。

順化地区では「ひとりが皆のために、皆がひとりのために」をスローガンに活動を行っています。これからもこのスローガンのもと地域の高齢者、子どもたちを見守りたいと思っております。

清明地区

地域住民と共に福祉のともじびを

清明地区社協会長 藤嶋 昭二

昭和57年4月に新地区の誕生と共に「清明地区社協」が結成されました。

それ以来、「温かい心の通じ合う地域づくり」をテーマに、福祉委員による見守り訪問活動や自治会型デイホーム事業、食事サービス事業実施を通して、福祉問題の早期発見や必要な方への情報提供等を行い、日々、地域での支え合い活動の充実・強化に取り組んでいます。

時代の流れと共に福祉課題を抱える人たちが増え、その重要性は増えています。支え合い活動への理解者を増やすと共に、その輪を



若い世代にも広げていくことが必要です。

若い世代への働きかけとして、自分たちが将来年老いても安心して暮らしていける地域づくりとは何か、私たちひとり一人の考えや行動がどうあるとよいか等、今一度、みんなで考える機会をもつことが大切であると考えています。

手話や点字、車いす等の体験学習や、当事者の方を講師に招いてのボランティア講座、福祉のまちづくりワークショップなどを通じて、優しさや思いやりの心の育成する機会を次年度以降、検討していきたいと思

います。
清明地区社協では、身近な町内での顔の見える互助運動をめざし、「**ち**小さなことから**い**一歩ずつ、**き**近所と始めよう、**ふ**普段の**く**暮らしの**し**幸せ」を呼びかけながら、温かい町内、安心して住み続けられる清明のまちづくりへと、地域住民と共に、一隅を照らす「福祉のともじび」を掲げていきたいと思